

ボランティアを体験して

多賀中学校 二年 小原 瑞稀

最近、日本のいろいろな場所で大きな災害が起きています。昨年の九州北部豪雨、一昨年の熊本地震、そして私が経験した七年前の東北地方大平洋沖地震は戦後最悪のものと言われている。

災害が起ると、テレビでボランティアの人が多く映し出される。内容は家の片付けや炊き出し、子供の面倒をみることなどさまざまありますが、

私はボランティアを経験したことがないので、夏休みを利用して、体験してみることがしたい。体験場所は福祉作業所。障害者が通う就労支援施設だ。今回は二回、朝九時から十六時まで、障害者と一緒に作業をする。

ボランティアって何をすればよいのだろうと不安だったが、作業所の職員さんに話を聞くと、ボランティアというより、二の間私が学校で経験した職場体験に近いような気がする。

た。

初日、緊張しながら作業所に向かうと職員さんが笑顔で迎えてくれ、一日の作業を丁寧に説明してくれた。

作業は規格外のハットシートを良いものと悪いものに分別し、良いものだけを選びた。んで箱詰めする。良いものと悪いものに区別するの少し迷ったが、私にもなんとか出来た。二れを欲しいという人に売ってお金にする。と、作業所に通っている障害者の工賃、つまりお給料になるという。わたしは頑張って作業をすると、通っている障害者の人の給料が多くなるなら、とわが入った。でも、商品にするには丁寧さが要求され、思うように数多く作業するとは出来なかった。

休み時間には、障害者の人と会話をした。話ができない人やコミュニケーションが取れない人もいたが、どかが障害者なの？と思うような人もいた。精神障害の人だと後から聞いた。

障害と聞くと、目が見えないとか手足が不自由とか思いがちだが、見た目は健常人と変わり無い人もたくさんいる。三十代の女性の人は、
「私は結婚しないし、子供も産まない。なぜか」というと、「私みたいなお子供が産まれたら迷惑に打るから」
と話した。自分が生きていくのは社会にとって迷惑だと思っ
ているのを感じ、悲しくなった。そう思いながら生きていくのはどんな
に辛いだろう。でも、私はその人の言葉に返事はできなかつた。
た。た二日のボランティアでは誰かのためになつたか分からないが、私はいろいろなことを考えることができた。また、機会を見つけてチャレンジしたいと思う。